



# アイテム しごとと探検隊 18th

アイテムしごと探検隊は「しごとの素晴らしさを伝えたい」という  
私たちの思いから始まりました。  
実際の職場に足を運び、そこで働く人の話を聞くことを通して、  
しごとの大切さ、素晴らしさに出会ったり、  
発見できることを願っています。

今回の訪問先 **社団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ事務局)**

●隊員紹介(あいうえお順)●

伊津くん (6年生) 大川原さん (5年生) 小川くん (6年生) 勝野さん (5年生) 金今くん (6年生)  
川村くん (6年生) 熊倉さん (6年生) 栗原くん (5年生) 嶋村くん (5年生) 高野さん (6年生)  
土田さん (6年生) 中島くん (6年生) 林くん (5年生) 二石くん (5年生) 淵野くん (5年生)  
真殿くん (6年生) 宮野くん (6年生) 森さん (6年生) 山田くん (6年生) 山本さん (5年生)

a.y.p

アイテム・ユース・プログラム  
アイテムは次代を担う子どもたちに  
「しごと」のすばらしさを伝えていきます。

## 今回の探検先は… 社団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ事務局)

東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ事務局。チェアマン室や約40人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われている。同じビル内には、オフィシャルグッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、映像を管理する「Jリーグメディアプロモーション」など関連会社がある他、「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

●探検実施日:2011年7月28日(木)

### 大人気のJリーグ事務局探検

小学生がさまざまな職場を訪れ、働く人たちから話を聞く「アイテムしごと探検隊」。その中でもJリーグ事務局の探検は大人気で、多数の応募者の中から抽選で選ばれた小学5・6年生20名が参加した。

事務局を訪れた子どもたちをまず迎えてくれたのは、大東チェアマン。「この建物で働いている人は関連会社を含めて約百名ですが、その他にもいろいろな人がJリーグを支えてくれています」と教えてくれた。



今回のナビゲーターは、JリーグOB選手の小倉隆史さん。「サッカーをしている僕を見たことがある人?」あがった手が少数だったため、小倉さんはがっかり。子どもたちはクスリ。緊張が少しずつゆるんでゆく。

### 試合の臨場感を声だけで伝える

まず登場したのは、TBSアナウンサーの佐藤さん。「私の仕事は、スタジアムに来られないお客さんに、声だけで、試合の臨場感を伝えることです。サッカーの試合に台本はない。だからこそ、入念な準備が必要だという。例えば、実況中のコメントに盛り込むため、2日前から練習場などに足を運び、選手の気持ちやコンディションを取材するそう。さらに、勝負のパターンを想定した資料を何通りも作るが、試合は思い通りには進まず、実際にはあまり使えないという。」「そがこの仕事の一番面白いところです」と、佐藤さんは笑った。



### 記憶に残らない審判を目指して

ワールドカップでも審判経験のある廣島

# 華やかなピッチの向こうで たくさんの方が働いていたんだ。

松永さんは今、目まぐるしく変わるピッチの様子を、ゴール奥の特等席で見守る。手でシャッターを切るだけでなく、足のペダルも利用して一度に2台のカメラを操ることも。「決定的瞬間を撮るためには、次にどうなるかを常に予測することが大切。高校まで一生懸命にサッカーをやってきた松永さんだからこそ、いい写真が撮れるんだよ」と小倉さんが補足してくれた。

### 次の目標は監督になること

そして、いよいよ小倉さん。現役時代、チームとしての練習が1回90分程度だったことを聞くと、その短さに子どもたちはびっくり。「あんまり長いと、怪我につながるからね。その一方で、自分自身でトレーニングをしたり、食事にも気を配っていたことなど、選手の日常生活についても教えてくれた。



小倉 隆史(おぐら・たかふみ)氏 プロフィール  
1992年 名古屋グランパスエイト  
1993年 エクセルシオール(オランダ)~94年帰国  
1996年 2月アトランタ五輪代表合宿で右ひざを痛め、オランダでリハビリ  
2000年 完全復帰。その後4つのクラブでプレー  
2006年 現役を引退  
技術、破壊力パツグンのストライカーで「レフティ・モンスター」と呼ばれていた

「がんばればがんばっただけ、結果につながるのがサッカー。だから面白いんだ」。小倉さんの次の目標は監督になること。そのためにも、今も勉強し続けているという。「僕が監督するチームに来るのを待ってるよ」と憧れの小倉さんに語りかけられて、Jリーガーを指す子どもたちの顔は紅潮がみ。これからの練習にもますます力が入りそうだ。



### 子どもたちが感じた驚きと感嘆

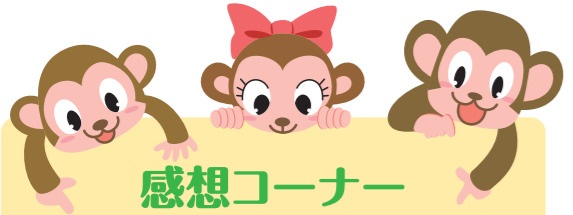
続いて職場見学へ。事務局の樋口さんが大きな帽子をかぶって登場。「探検隊の隊長のつもり」と、子どもたちに向かって「っこり。チェアマンルームやフロアを案内してくれた。

### 手も足も使って瞬間を逃さない

Jリーグオフィシャルカメラマンの松永さんは、高校生の時、怪我でサッカーを諦めざるを得なかった。それでもサッカーに関わり続けるため、写真の専門学校へ進んだそう。

続いて、グッズを扱うJリーグエンタープライズ、全試合の映像を保存するJリーグメディアプロモーションも見学。最後は、なでしこジャパンの優勝トロフィーが展示されたばかりの日本サッカーミュージアム。大混雑の中、歴代のユニフォームやボールなどを小倉さんに説明してもらいながら、サッカーの歴史にも触れた。

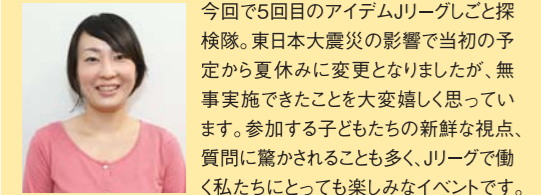
アイテム本社に戻って、一日の感想を語り合った子どもたち。華やかな試合を支えるためにいろいろな仕事があることに驚き、たくさんの方が小さな努力を積み重ねているのを感じてくれたよう。うだ。



## 感想コーナー

- Jリーグの裏に、こんなに仕事があるとは思わなかった。
- Jリーグにかかわるどんな仕事も、試合前に準備していることがわかった。
- 仕事は大変なことだけど、全部にやりがいがあり、準備することが大切だと思いました。
- 小倉さんにいろいろなことを聞いてためになったし、おもしろかった。

### 社団法人 日本プロサッカーリーグ 事業部 浅田 玲子さん



今回で5回目のアイテムJリーグしごと探検隊。東日本大震災の影響で当初の予定から夏休みに変更となりましたが、無事実施できたことを大変嬉しく思っています。参加する子どもたちの新鮮な視点、質問に驚かされることも多く、Jリーグで働く私たちにとても楽しみなイベントです。

今回Jリーグに係わるたくさんの方を知ったことで、今まで以上にJリーグに興味を持ち、好きになってもらえたら嬉しいです。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力をお願い  
訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会と一緒に提供していただけますか?  
お問い合わせは「アイテム広報室」まで ☎0120-938-989  
アイテムは、Jリーグを応援しています。

